

【解説】 公開講座 「人間ドックの報告書をどう読むか 検査データの意味すること」

坂庭操 (臨床医学系)

健康診断や人間ドックは、病気の予防・早期発見のほかに、最近はより健康な生活をめざして、生活習慣の改善を目的にも行われるようになりました。健康診断や人間ドックを受診すると、血液検査や尿検査などの報告書が送られて来ます。コレステロールや中性脂肪の値が高いとか、貧血だとか、尿にわずかに糖が出ているとか赤血球がまじっているという記載を見て、どうしたら良いのだろうと不安になる方が多いものです。検査の報告書を持って病院を受診すると、この程度なら心配ないと言われることもあるでしょうし、もっと詳しい検査をしてみましょうと言われることもあるでしょう。なかには、この詳しい検査が恐くて病院へ行けずに悩んでいる方もあります。この原因は、検査データが意味することが良く分からないからではないでしょうか。この講座では、一般の方を対象として、検査データが意味するもの、正常値(基準値)の範囲や、異常値とは何なのか、高血圧とは血圧がいくつからを言うのか、心電図の異常所見とは何を意味しているのかなどについて、分かりやすく解説します。いろいろな検査データの意味することを良く理解して頂き、永く健康を保つための手助けにして頂きたいと思います。

(これまでに検査を受けたことのある方で、御手元に検査の報告書を御持ちの方は講習時に御持参下さい。)